

令和6年度 うさみの園居宅介護支援事業所 事業報告書

◎ 事業運営の概況

令和6年度は4月から9月までは3名体制となっていたが、10月から新たに1名介護支援専門員が入職となり4名体制となった。但し令和7年2月より内部異動で1名減となり再度3名体制となっている。特定事業所加算についてもⅢとⅡを算定。職員の入れ替わりがあったことで、担当職員1人当たりの月の平均件数については前年比で28件→27件になり微減となり、目標の35件には及ばなかったが、総件数については1108件から1137件と増となった。

令和6年度も多職種連携を意識し行政や地域包括支援センター、医療機関、各事業所などとの情報共有に努め外部研修にも積極的に参加した。

◎ 事業計画実施状況

1. ケアマネジメントの質の向上

- ・今年度もリモート研修や動画視聴など参加できる研修には積極的に参加した。
- ・困難事例ケースについては、週一回の居宅会議内やその都度職員間で時間を作り、事例検討会を実施。問題の明確化や対応方法などの検討を随時行い、情報の共有を図った。また、必要に応じて地域包括支援センターや行政にも報告、地域ケア会議に参加し地域課題の抽出も図った。
- ・伊東市全域の居宅主任介護支援専門員と連携し GSV 研修を企画。参加、実施し地域全体のケアマネジメントの質の向上に励んだ。

2. 地域住民、地域包括支援センター、医療機関等各関連機関との連携強化。

- ・困難事例等を通し地域包括支援センターと協力し地域の中の課題を抽出。課題解決に向け関係機関とさらなる連携強化に努めた。
- ・通院時、入、退院時必要な情報を医療機関と共有し、利用者がご自宅で安心して過ごせるよう、適切なサービスの調整に繋げた。
- ・宇佐美圏域内にある他居宅事業所と合同で研修会を企画、開催。地域課題の解決に向け意見交換行い、行政に提案した。

- ・伊東市医師会や歯科医師会、薬剤師会等合同で災害時の勉強会に参加。顔の見える関係性作りに努めた。

3. 事業所の収入安定

- ・担当件数を増やしていけるよう、シズケアかけはしの空き状況を更新し常に最新の状況が分かるように対応。また地域包括支援センターや医療機関 MSW にも新規紹介依頼を随時行った。

- ・今担当しているケースをしっかりと行うことで、担当ケースのご家族から知人へ紹介など直接依頼につながるケースもあり、さらにご本人、ご家族との関係性づくりを意識して行った。

- ・利用者意向を第一に尊重しつつも、うさみの園系列事業所のショートステイ利用者の増加に努めた。また自宅での介護が難しくなった場合、特別養護老人ホームうさみの園への入所にも繋げるよう心掛けて対応していった。

4. 法令遵守、介護支援専門員倫理綱領に基づきコンプライアンス意識の向上を図る。

- ・法令遵守、介護支援専門員倫理綱領を遵守し運営基準に基づき適切なケアマネジメント、請求業務を実施、サービスの提供を行った。

- ・法改正も行われたため、厚生労働省からの介護保険最新情報や県、市からの情報収集に努め制度理解に努めた。